

商品名 ドロキシドパカプセル200mg「アメル」 医薬品基本情報

薬効	1169 その他の抗パーキンソン剤	一般名	ドロキシドパ200mgカプセル
英名	Droxidopa AMEL	剤型	カプセル
薬価	99.30	規格	200mg 1カプセル
メーカー	共和薬品	毒劇区分	

ドロキシドパカプセル200mg「アメル」の効能・効果

パーキンソン病＜Yahr重症度ステージ3＞の(すくみ足、たちくらみ)の改善、(家族性アミロイドポリニューロパチー、シャイドレーガー症候群)の(失神、たちくらみ、起立性低血圧)の改善、起立性低血圧を伴う血液透析の(倦怠感、脱力感、ふらつき、めまい、たちくらみ)の改善

ドロキシドパカプセル200mg「アメル」の使用制限等

1. 本剤成分又は含有成分で過敏症の既往歴、閉塞隅角緑内障、カテコールアミン製剤投与中、重篤な末梢血管病変のある血液透析、糖尿病性壊疽のある血液透析	記載場所	使用上の注意
	注意レベル	禁止
2. コカイン中毒、心室性頻拍	記載場所	使用上の注意
	注意レベル	原則禁止
3. 高血圧、動脈硬化症、甲状腺機能亢進症、心疾患、気管支喘息、内分泌系疾患、重篤な肺疾患、慢性開放隅角緑内障、糖尿病を合併した血液透析、重度の糖尿病を合併した血液透析、重篤な腎障害、重篤な肝障害	記載場所	使用上の注意
	注意レベル	注意

ドロキシドパカプセル200mg「アメル」の副作用等

1. 悪性症候群、高熱、意識障害、高度筋硬直、不随意運動、血清CK上昇、白血球減少、無顆粒球症、好中球減少、血小板減少	記載場所	重大な副作用
	頻度	頻度不明
2. 夜間せん妄、健忘、狭心症、のぼせ、発汗、CK上昇	記載場所	その他の副作用
	頻度	頻度不明

3. 幻覚、頭痛、頭重感、めまい、妄想、神経過敏、いらいら感、焦燥感、興奮、不安、抑うつ、不眠、不随意運動、頭がぼーっとする、精神症状増悪、悪夢、感情失禁、知覚異常、振戦、固縮、すくみ、言語障害悪化、眠気、悪心、食欲不振、胃痛、胃部不快感、嘔吐、口渇、腹痛、消化不良、胸やけ、便秘、下痢、流涎、腹部膨満感、舌あれ、血圧上昇、動悸、胸痛、胸部不快感、胸部絞扼感、不整脈、チアノーゼ、四肢冷感、AST上昇、ALT上昇、ALP上昇、LDH上昇、過敏症、発疹、そう痒、羞明、頻尿、尿失禁、尿閉、倦怠感、ほてり、顔面潮紅、浮腫、眼瞼浮腫、脱力感、発熱、両手の痛み、肩こり
4. 過度の昇圧反応、末梢循環障害、胎仔波状肋骨増加、仮死状態、胎仔体重低値、胎仔波状肋骨、妊娠期間短縮、仔の発育抑制、出生仔生後発育抑制

記載場所	その他の副作用
頻度	5%未満

記載場所	使用上の注意
頻度	頻度不明

ドロキシドパカプセル200mg「アメル」の相互作用

1. 薬剤名等：ハロゲン含有吸入麻酔剤

発現事象	-	投与条件	-
理由・原因	-	指示	禁止

2. 薬剤名等：ハロゲン含有吸入麻酔剤

発現事象	頻脈・心室細動の危険が増大	投与条件	-
理由・原因	ハロゲン含有吸入麻酔剤は、心筋のノルアドレナリンに対する感受性を高める	指示	禁止

3. 薬剤名等：カテコールアミン製剤

発現事象	心停止、不整脈	投与条件	-
理由・原因	相加的に作用（心臓刺激作用）を増加	指示	禁止

4. 薬剤名等：コカイン

発現事象	本剤の作用が増強	投与条件	-
理由・原因	本剤の作用が増強、神経終末においてカテコールアミンの再取り込みを阻害	指示	原則禁止

5. 薬剤名等：モノアミン酸化酵素阻害剤

発現事象	本剤の作用が増強され血圧の異常上昇	投与条件	-
理由・原因	ノルアドレナリンの代謝が抑制され、ノルアドレナリンの濃度が増加	指示	注意

6. 薬剤名等：三環系抗うつ剤

発現事象	本剤の作用が増強され血圧の異常上昇	投与条件	-
理由・原因	神経終末でのノルアドレナリンの再吸収が阻害され、ノルアドレナリンの濃度が増加	指示	注意

7. 薬剤名等：分娩促進剤

発現事象	本剤の作用が増強され血圧の異常上昇	投与条件	-
理由・原因	相加的に作用（末梢血管収縮作用）を増強	指示	注意

8. 薬剤名等：エルゴタミン

発現事象	本剤の作用が増強され血圧の異常上昇	投与条件	-
理由・原因	相加的に作用（末梢血管収縮作用）を増強	指示	注意

9. 薬剤名等：抗ヒスタミン剤

発現事象	本剤の作用が増強され血圧の異常上昇	投与条件	-
理由・原因	相加的に作用（末梢血管収縮作用）を増強	指示	注意

10. 薬剤名等： $\alpha 1$ -受容体遮断作用のある薬剤

発現事象	本剤の作用が減弱	投与条件	-
理由・原因	これらの薬剤は $\alpha 1$ 受容体遮断作用を有する	指示	注意

11. 薬剤名等：アメジニウム

発現事象	本剤の作用が増強され血圧の異常上昇	投与条件	-
理由・原因	神経終末でのノルアドレナリンの再吸収・代謝が阻害され、ノルアドレナリンの濃度が増加	指示	注意

12. 薬剤名等：レセルピン誘導体

発現事象	本剤の作用が減弱	投与条件	-
理由・原因	レセルピンは脳内ノルアドレナリン、ドパミンを減少	指示	注意

13. 薬剤名等：レボドパ

発現事象	作用を増強	投与条件	-
理由・原因	レボドパ、アマンタジンの作用を増強	指示	注意

14. 薬剤名等：アマンタジン等

発現事象	作用を増強	投与条件	-
理由・原因	レボドパ、アマンタジンの作用を増強	指示	注意

15. 薬剤名等：フェノチアジン系薬剤

発現事象	本剤の作用が減弱	投与条件	-
理由・原因	これらの薬剤は抗ドパミン作用のほかに末梢の α 受容体遮断作用を有する	指示	注意

16. 薬剤名等：ブチロフェノン系薬剤

発現事象	本剤の作用が減弱
------	----------

投与条件	-
------	---

理由・原因	これらの薬剤は抗ドパミン作用のほかに末梢の α 受容体遮断作用を有する
-------	--

指示	注意
----	----

17. 薬剤名等：鉄剤

発現事象	本剤の作用が減弱
------	----------

投与条件	-
------	---

理由・原因	キレートを形成し、本剤の吸収が減少
-------	-------------------

指示	注意
----	----

